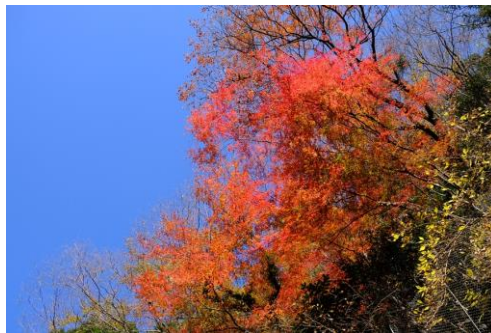


奥多摩むかし道(おくたまむかしみち)



11月には紅葉が丁度いいだろうと奥多摩へ。「奥多摩むかし道」は旧青梅街道と呼ばれていた道で、今回は奥多摩湖から奥多摩駅へと歩きました。参加者はゲストの高島さんを含めて15名でリーダーは笠石さん。◆奥多摩駅に9:17分に到着すると大勢の登山客で賑わっており、奥多摩湖に向かうバス停は長蛇の列だ。臨時便が次々に発車していくが、我々は3台のバスに分かれてしまった。奥多摩湖で集合してみると、人数が足りない!3台の内1台が奥多摩湖が終点ではなく鴨沢まで行くバスであったため乗り過ぎてしまったようだ。折返しのバスを待つ間ゆっくり小河内ダム付近を散策する。水と緑のふれあい館付近に冬桜が咲いており、紅葉との共演を見る事が出来た。◆全員揃ったところで、予定より50分ほど遅れて出発。真っ赤に紅葉した木々があちこちに点在する道を気持ちよく歩いて行く。時々現れる名所旧跡を確認したり、木々が開けて奥多摩湖が見え隠れする道は標高差も少なく全体的に歩きやすい。しかし、舗装道路が大半でその点が山道よりも疲れるようだ。◆3人以上同時に渡れない道所吊橋でスリルを楽しんで、虫歯地蔵がある広場で昼食とした。広場の脇に生えている柿の木に二三匹の猿が登り実を食べていたり、蜘蛛の糸が天に向かって沢山流れている模様など普段見られないものを見る事が出来た。◆コースのほぼ中間地点の「いろは楓の巨樹」は他の楓より色づきが遅いようだが赤から緑のグラデーションが実に綺麗だった。後半はやや急ぎ気味に歩き、奥多摩駅に14:20分過ぎに到着。何と出発が50分遅れたのに、帰りの電車は当初の予定通りに乗ることができた。皆さん健脚です。

見え隠れする道は標高差も少なく全体的に歩きやすい。しかし、舗装道路が大半でその点が山道よりも疲れるようだ。◆3人以上同時に渡れない道所吊橋でスリルを楽しんで、虫歯地蔵がある広場で昼食とした。広場の脇に生えている柿の木に二三匹の猿が登り実を食べていたり、蜘蛛の糸が天に向かって沢山流れている模様など普段見られないものを見る事が出来た。◆コースのほぼ中間地点の「いろは楓の巨樹」は他の楓より色づきが遅いようだが赤から緑のグラデーションが実に綺麗だった。後半はやや急ぎ気味に歩き、奥多摩駅に14:20分過ぎに到着。何と出発が50分遅れたのに、帰りの電車は当初の予定通りに乗ることができた。皆さん健脚です。



〔電車:若葉駅 7:11 発→奥多摩駅着 9:17→奥多摩湖 9:40 頃〕奥多摩湖 10:40 発→西久保の切り返し 11:40→道所吊橋 11:55→虫歯地蔵 12:00 着(昼食)12:35 発→しだらく吊橋 12:50→いろは楓の巨樹 13:10→不動の上滝 13:30→槐木(さいかぢぎ)14:00→奥多摩駅 14:22 着

〔帰路電車:奥多摩駅 14:30 発→若葉駅 16:37〕(伊藤記)